

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100577		
法人名	医療法人 敬和会		
事業所名	グループホームこいけばる憩いの苑	コスモス	
所在地	大分市大字小池原1021番地		
自己評価作成日	平成27年8月15日	評価結果市町村受理日	平成27年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成27年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、在宅支援クリニックすばるとは2階の渡り廊下で繋がっており、24時間の医療連携体制が取れています。</p> <p>2、市街地にあり交通機関を利用しやすく、大分バス池の平バス停から徒歩3分の場所にあります。</p> <p>3、すぐ近くに郵便局、スーパー、コンビニが並び買い物や食事には便利な立地条件です。</p> <p>4、1階は居室にトイレがありゆっくり排泄ができる。又広く明るいフロアで入居者の皆さん毎日くつろいでいます。</p> <p>5、2階は広いリビングにいつも明るい日差しが降り注ぎゆったりとした空間です。リビングつなぎのベランダには季節の野菜や草花を育てており窓越しに緑が映え、入居者の皆さんの楽しみの一つになっています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>・昨年10月開設した新しい事業所である。</p> <p>・母体である法人の内外の研修が年間多く有り、職員は意欲的に取り組んでいて向上心が旺盛である。</p> <p>・隣接してクリニックがあり万全な医療体制が取られており、24時間安心である。</p> <p>・日中はなるべくトイレでの排泄に心がけ、利用者の自立支援に向けて取り組みがなされ、飛躍的な効果があらわれている。</p> <p>・全職員で全ての利用者に対する情報共有がなされ、職員間の連携が取られている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。 職員の目につく場所に掲示し、ケアの実践に繋げている。	母体である法人の理念と事業所の理念を出入口の目立つところに掲示している。職員会議や申し送りの時に理念を再確認しながら。住み慣れた地域の中で安心して暮らしていけるよう実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天候の良い日は、近くの公園に散歩に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり、話しをしたり 自宅で出来た野菜を頂いたり交流を図っている。又保育園児との交流も行っている。	近所にある団地の公園に散歩に出かけ地域の人たちと会話を楽しんだり、隣接の菜園の人から野菜をもらったりしている。保育園児の訪問がありゲームやダンスを披露してくれる。明野中学からの社会体験学習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で地域の代表者と理解を深めるようにしているが、なかなか地域の方々には活かせていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動や入居者の現状報告等を行っている。又代表者の方々から貴重な意見やアドバイス等を頂きサービスの質の向上に役立たせている。	2ヶ月に一度の運営推進会議で事業所の行事案内やヒヤリハットの報告を行って、そこで出された意見を基に職員会議等で検討し改善につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂きご意見アドバイス等を頂いている。	運営推進会議において国内のグループホームでの事件やマイナンバー制度についてなど様々な情報の提供を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で安全面に配慮しながら、その時々 の行動に対し見守り 声掛けを行い拘束をしないケアを実践している。	基本的に身体拘束はしない方針である。法人の研修会を受け、身体拘束をしない事を全職員に徹底している。事例検討を繰り返しながら拘束しないケアに結び付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権擁護や身体拘束ゼロについての研修に参加し職員全員に周知、抑制しないケアを実践している。		

事業者名:グループホームこいけばる憩いの苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し、内部勉強会では、伝達講習を行い 全職員に理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を十分説明し又良く読んで頂き 同意の上 署名 捺印をして頂き契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに対する意見や苦情について管理者が窓口になって対応している。又意見箱を設置し気軽に意見を伝えられるように、場所も考慮し設置している。	家族と気楽に話ができる雰囲気づくりに努めている。「して欲しい事」等家族から意見がもらえる工夫をしている。もらった意見はミーティング等で職員に伝達している。今後家族会を開催する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議にて意見交換の機会を設けている。又日頃から職員との積極的なコミュニケーションを図り意見交換を行っている。	個人面談で職員が何を思っているか等聞き取りを行ったり、事業所から色々な情報を発信したりして、お互いの意思疎通をはかっている。職員研修や資格取得に向けて支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得に向けた支援を行い向上心を持って働けるように、取り組んでいる。勤務希望は出来る限り全員に組み入れて働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による目標管理シートを作成し個々の目標達成に向けて、平等に研修を受けさせる機会を与えスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の事業所(グループホームおおざい憩いの苑 小規模多機能みなはるの郷)と交流を持ち一緒に学んだり親睦を深めお互いにサービスの向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後は、環境の変化で不安が大きく情緒不安定になる為目配り、気配りに努めコミュニケーションを密に取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前 面接調査時に家族と時間をかけコミュニケーションを図り要望や意見を聞き対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の意見を聞き 本人の様子を観察し必要がある時は医療デイケアの調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の残存機能に応じた活動を提供している。共に行う上で、人生の先輩であることで尊重しお互いに支えられている関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて近況報告を伝えている。家族宛てに入居者(書ける方は自分で 書けない方は職員の代筆)が年賀状を送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの際には自宅や馴染みのある場所に行き買い物をしたり知人と談笑したりする時間を設けている。	近所の人や毎日訪問してくれて事業所の中でみんなとお馴染みになり、雰囲気が和んでくる。利用者の自宅近くまでドライブに出かけたり、そこで会った人と話をしたり、外出できない時は電話で話をしたりして関係継続がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常時職員が目配りを行い孤立しないように、声かけをしている。又職員が情報を共有し利用者同士の関係がスムーズに行えるように、職員が働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの生活環境 支援の内容 注意が必要な点について情報提供し きめ細かな連携を心掛けている。又家族からの相談にものっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や様子から思いや意向の把握に努め 又介護記録等で本人の思いをくみ取るように努めている。	月1回のユニット会議や職員会議で利用者の様子を報告している。面会時家族から希望を聞いたり、日常利用者との会話でどんなことを話したか、利用者の思いなどを申し送りノート等に記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成 家族 関係者 医療機関からの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や日々の様子を観察し介護記録(日報)に記録し職員間の情報交換に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向 要望を聞き反映させている。毎月のユニット会議で情報交換を行い職員間で共有ができています。	毎月ユニット会議の後、モニタリングを行い、家族の意見を取り入れたり職員の情報などを含め総合的に介護計画に反映している。法人の理学療法士からアドバイスをもらうなど、多職種連携を図りながら、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人一人の様子を介護記録に記載全職員で共有している。又伝達ノートを利用しながら、より良いケアを目指し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者のその時のニーズに応じた支援を行っている。ドライブ、買い物、苑便り発行。		

事業者名:グループホームこいけばる憩いの苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の場等で情報を頂き地区の行事やイベントに参加している。地区のお祭りには子供神輿が来られ入居者の皆さん喜ばれる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接のクリニック又協力医療機関を定期的に通診し又往診してもらい健康管理を行っている。	隣りにクリニックがあり、24時間体制が確立しており医療面で充実している。月2回の定期往診の他、何か体調に異変があればすぐ受診できる。家族には医師や看護師からの説明があり安心である。訪問歯科など協力医療機関がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者のバイタルチェックを毎日実施し常に情報交換を行っている。必要時主治医に情報を伝え指示を受ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	クリニックすばるが隣接している為常日頃から情報交換ができています。入院時等は職員が様子を見に行き入居者が安心出来るように心がけている。退院時もスムーズな対応ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に関しての説明同意を頂いている。尚入居後 必要に応じて看取り介護についての同意書を頂く。	重度化した場合や終末期については利用者や家族と話し合い、希望に沿った対応をしている。最後までその人らしく豊かな生活が送れるよう可能な限り看取り介護を行っていく方針である。今後看取りの必要性が起きることもあり、研修をする予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人が全体必須として開催しているBLS研修に参加し実践を身につけるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成している。年2回隣接のクリニックすばると合同の避難訓練 通報訓練を行っている。	日中の火災を想定した避難訓練を併設のクリニックと合同で年1回実施しており、今年度内にもう1回行う予定である。災害時の備蓄は、渡り廊下で繋がる併設のクリニック内に準備している。	火災・水害・地震などさまざまな災害を想定し、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員で話し合い、身につけて行く事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援時は必ず声かけを行うと共に各個人を尊重し姓で呼んでいる。又居室入口のドアは必ず閉めプライバシーに留意している。	プライバシーの尊重についての研修を毎年行っている。居室は個人の家という認識を持ち、必ずノックして入室。利用者が部屋を出ている時はドアを閉める等行っている。トイレ誘導時の声掛けはプライバシーに気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において常にコミュニケーションを図り表情やしぐさ等で思いを読み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調や生活パターンを把握し出来るだけ希望に沿うような支援を心かけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の更衣は本人に衣類を選んで頂く1回/月美容師の訪問にて希望に沿ったカットを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き 箸並べなどの食事の準備や後片付けを一緒に行っている。食事は職員と一緒に話しながら楽しい雰囲気の中で食べてもらうように心かけている。	三食は隣にあるクリニックの厨房で調理している。利用者と一緒にお茶を配ったり後片付けを手伝ってもらったり、家にいるような雰囲気が出ている。ソーメン流しやスイカ割りなどをして楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアチェック表を利用し状態把握と支援を行っている。又個々の状態に応じて食事形態や食器の工夫 食事介助の方法等を検討し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底し必要に応じて訪問歯科依頼をしている。1回/W義歯の消毒を実施している。		

事業者名:グループホームこいけばる憩いの苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄を促し定期 随時の排泄支援を行っている。又可能な限りリハビリパンツ パッドを外し気持ちよく排泄出来るように心がけている。	日中は出来るだけトイレでの排泄ができるように心がけている。プライバシーに配慮しながら様子を見てトイレに誘導している。職員全員でパッド利用の減少に努め、自立に向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量 散歩や体操にて便秘予防に努めている。又下剤などは主治医に処方をして頂き排便のコントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週3回は入浴してもらっている。又体調不良時や気分に合わせて日時を変更したり入浴拒否時は清拭更衣に変更する場合がある。	週3回の入浴を実施している。入浴剤を入れて温泉の雰囲気をかもしだして、利用者にとって入浴が楽しいひと時になっている。リフト浴・シャワーチェア・機械浴などが完備されている。希望すれば毎日でも入浴できる体制が整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝を1時間程度にし出来るだけフロアで活動して頂き夜間の安眠に繋げている。天気の良い日は布団を干したり環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋ファイルを用意しており内服薬の理解がすぐ出来るようにしている。服薬管理については職員が責任をもち見守り又介助にて服薬管理を行っている。服薬後はサインをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張りをもって頂き日常の中で役割や楽しみの時間を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ外出 天気の良い日は近隣の公園まで散歩や玄関前のベンチで過ごす時間を提供している。	桜の花見や吉四六ランドなどヘッドライブに出かけたり、近くの公園にはよく出かける。ベランダの花を見たり、水やりを手伝ってくれたりする。利用者からの希望で回転ずしやファミリーレストランで食事をすることもある。可能な限り希望に沿った支援が行われている。	

事業者名:グループホームこいけばる憩いの苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には個人で管理はしないようになっていいる。希望があれば、少額自分で管理している。(家族承諾)買い物外出時自分で支払いをして頂いている。(職員付き添いにて)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望をされた際は電話をかけられるようになっていいる。又年賀状を出す取り組みもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの開閉、エアコンでの温度、湿度調整まめに行っている。又フロワには季節が感じられる作品を掲示したりテラスには四季の花を植え季節を感じられる工夫をしてる。	テラスには季節の花が植えられており、利用者と一緒に水やりなど栽培の世話をしている。食堂は日当たりがよく明るい雰囲気である。緑のカーテンを作ったり採光や温度にこまめに気を付け心地よく過ごされるよう工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや廊下にソファーを置き、気の合った入居者同士でゆっくり過ごせる空間を提供している。又季節ごとにディスプレイを工夫。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や馴染みの物を持ち込んで頂き居心地よく過ごせるようにしている。	これまで慣れ親しんだ小物や家具を部屋に置き、写真等を飾っている。見慣れたものが身の回りにあり落ち着いた生活が送れるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線に物を置かないようにし、入居者が安全に生活できるように家具などに工夫している。		